

《研究論文》

# 米国メリーランド州における 教師教育スタンダードの特質

— NCATE及びINTASCとの関連に着目して —

東亜大学 藤 本 駿

## ABSTRACT

Characteristics of Teacher Education Standards in the State of Maryland :  
Focusing on the relation with NCATE and INTASC

**Shun FUJIMOTO**

Toua University

The purpose of this paper is to consider characteristics of teacher education standards in the state of Maryland focusing on the relation with National Council for Accreditation of Teacher Education (NCATE) and Interstate New Teacher Assessment and Support Consortium (INTASC). NCATE and INTASC have developed teacher education standards in order to clarify knowledge and skill necessary for teaching profession and improve the quality of teacher education system.

The findings from this study are as follows: (1) the standard in the stage of teacher preparation in Maryland clearly shows not only the contents of NCATE standards but also the ones about Professional Development School (PDS) which can be said to be characteristics of teacher education system in Maryland. The purpose of considering the contents about PDS as a part of an evaluation on the teacher education institution seems to be to make progress on the teacher education reform centering on PDS in the state. (2) there are two options of a university-based teacher preparation program and an alternative route to teacher certification program in Maryland, and some teacher education standards have been developed using NCATE and INTASC standards as a reference to construct a system which guarantees the quality of new teachers based on the standard.

## 1 研究の目的

本研究は、米国メリーランド州において策定された教師教育スタンダード<sup>1</sup>、特に教員養成・免許取得段階のスタンダードについて、全米教師教育資格認定協議会 (National Council for Accreditation of Teacher Education : NCATE) 及び州間新任教員評価支援協会 (Interstate New

Teacher Assessment and Support Consortium : INTASC) の2つの教師教育関係団体との関連に着目し、その特質を明らかにすることを目的とする。

近年、我が国や諸外国では、教員の質の向上が学校教育上の重要な課題となっており、教師教育政策の主要なテーマとして共通認識されている。その中でも教師教育のスタンダード化は、教員の専門性の領域や構造を明確化し、教員の質の維持や向上を図る方策として注目すべき動向の一つである<sup>2</sup>。特に米国では、全米的な教師教育関係団体によって教員養成、免許取得、現職教育の各段階においてスタンダードが策定されており、近年ではこれらの団体が連携し、スタンダードの内容が相互に関連づけられるようになってきている。米国の教師教育のスタンダード化の背景には、1980年代後半以降における教職を専門職として確立しようとする教師教育改革の動向が関連しており、教職にふさわしい知識基盤 (knowledge base) を明確化し、それを全米各州の教師教育制度やプログラムに反映させ、関連する改革を推進しようとしている<sup>3</sup>。

我が国では、教員に求められる資質能力については、これまで中央教育審議会答申等で提示されてきたが、その領域や構造が具体的に明示されているわけではない。また、一部の教員養成機関では、学校現場や地方教育行政機関と連携し、教員志望者を評価するためのスタンダードや到達目標を明示する取り組みがおこなわれている<sup>4</sup>。しかしながら、これらは特定地域に限定される単発的な取り組みであり、教職全体にかかわるような発展性や普遍性を有するものであるとは言い難い。今後、我が国で教師教育スタンダードを開発・発展させるためには、教師教育スタンダードの制度的な位置づけや役割について検討を重ねていく必要がある。前述した米国の動向は、全米的なスタンダードのもとで一貫した教員の質保証システムを構築しようとしている点で注目されるものであり、また、近年の我が国の教師教育改革の取り組みが米国のそれらの一部参考モデルとしていることを踏まえれば、今後の我が国の教師教育制度の在り方を検討・考究していく上で重要な知見を得ることができるものと考えられる。

米国における教師教育スタンダードに関する我が国の先行研究としては、全米的な教師教育関係団体の近年の動向に焦点を当てた研究や教師教育関係団体の連携の現状に注目した研究などが挙げられる<sup>5</sup>。また、米国内でも教師教育関係団体の連携によるスタンダードの内容を分析した研究などが積み重ねられている<sup>6</sup>。さらに、本研究の課題である教師教育関係団体と州との関係について指摘した研究も散見される。例えば、WiseとLeibbrandは、教師教育関係団体のスタンダードを州や学区、高等教育機関、専門団体などと関連させることにより、様々な制度的変化が生じることを指摘している<sup>7</sup>。また、Cochran-Smithは、教職の専門職化の改革動向以外に、連邦や州が関与する動向があり、それらが複雑に関連し、州の教師教育制度が構築されていることを指摘している<sup>8</sup>。

一方で、各州レベルの教師教育スタンダードに焦点を当てて、教師教育関係団体による具体的な影響実態を詳細に分析したものは見当たらない。全米各州で多様な教師教育制度が整備されている現状を踏まえれば、教師教育関係団体による影響を受け、州レベルでいかなる教師教育スタンダードを策定したのか詳細に分析することは、今日の米国教師教育スタンダードの特質を把握・検討する上で重要であるといえる。

そこで、本研究では、メリーランド州を事例として、同州が策定した教師教育スタンダードに関する分析を進めていく。具体的には、まず、教員養成・免許取得段階における全米的な教師教育関係団体として、教員養成課程の資格認定団体であるNCATE、新任教員の評価・支援をおこなうINTASCの2つの団体に注目し、両団体とメリーランド州との連携経緯について整理する。

次に、メリーランド州や両団体が公表する報告書や資料、法令等の詳細な分析を行い、同州が策定した教員養成・免許取得段階におけるスタンダードが、両団体とどのような関連や影響があるのか明らかにする。以上の分析を通して、同州教員養成・免許取得段階におけるスタンダードの特質を考察する。メリーランド州を事例とした理由は、同州が州レベルで教員養成・免許取得段階のスタンダードを策定しており、また1980年代後半以降の教師教育改革で注目すべき動向の一つである職能開発学校（Professional Development Schools：PDS）を積極的に推進しているなど、教師教育改革に積極的に取り組む州の一つといえるからである<sup>9</sup>。

## 2 メリーランド州と教師教育関係団体との連携経緯

### (1) メリーランド州とNCATEとの連携経緯

NCATEは1954年に創設された非営利団体であり、教員養成機関の資格認定（accreditation）を実施する全米的組織である。その使命は、教員養成機関や教員養成プログラムに関するスタンダードを設定し、それを満たす教員養成機関に資格認定を実施することにより、教員養成の質を保証することである。現在、資格認定を受けた大学は656、申請している大学は70となっている<sup>10</sup>。

教員養成機関は、本来、州の課程認定（approval）を受けることが必要であるが、これとは別に、自発的にNCATEの資格認定を受けることにより、教員養成機関やそのプログラムの質の高さを証明することができる。1980年代後半以降、NCATEは州との連携関係の構築を進めるようになり、現在では、ワシントンD.C.を含め50州と何らかの連携協定を結ぶに至っている<sup>11</sup>。

メリーランド州では、以前からNCATEの資格認定を受けている一部の教員養成機関が存在したが、同州とNCATEの正式な連携関係が構築されたのは、協定書（protocol）を交わした1991年以降である<sup>12</sup>。また、1998年にはメリーランド州法に「州内の教員養成機関の資格認定プロセスは、メリーランド州教育省と全米的に認知された資格認定機関によって策定された協定書に沿って行われる」と規定された<sup>13</sup>。この法律により、同州内の教員養成機関は、NCATEの資格認定を自発的に受けるのではなく、法令に基づく仕組みとして求められるようになった<sup>14</sup>。

また、NCATEは、養成プログラムやユニット（プログラムを統括する組織）に対するスタンダードとは別に、PDSの普及を促すためのガイドライン的なものとして、2001年にPDSスタンダード（Standard for Professional Development Schools）を開発している。同州では、州内のPDSを普及させるために、州教育省が主導し、NCATEのPDSスタンダードを参考にして同州に対応した形のPDSスタンダードや、州内の大学が設置したPDSを評価するための「メリーランド州PDS評価枠組み」（Professional Development School Assessment Framework for Maryland）を策定している<sup>15</sup>。他州でもPDSは設置されているが、同州のように、PDSに対する評価の仕組みを整備している州は他に見られず、PDSの普及という教師教育改革の動向においても、同州がNCATEとの連携関係を強めていることが窺える<sup>16</sup>。

### (2) メリーランド州とINTASCとの連携経緯

INTASCは、1987年に非営利団体である州教育長協議会（Council of Chief State School Officers：CCSSO）のプロジェクトとして発足した。その目的は、新任教員に必要な知識と技能に関するスタンダードを整備し、州と連携しながら教員養成並びに教員免許制度の改革を行うことである<sup>17</sup>。1992年に「新任教員の免許・評価・教育に関するモデル・スタンダード：州との対話のためのリソース」（Model Standards for Beginning Teacher Licensing and Development：A Resource for State Dialogue）を発表し、新任教員が知るべきこと、なすべきことについて

のスタンダードを 10 項目に明示した。さらに、2011 年にはこのスタンダードを改訂し、「モデル・コア・教育スタンダード」(Model Core Teaching Standards: A Resource for State Dialogue)を公表している<sup>18</sup>。INTASCは従来から州との連携に積極的であり、現在、INTASCと連携する州は、24 州となっている<sup>19</sup>。

メリーランド州では、1994 年に INTASC のスタンダードを参考に、新任教員に対するスタンダードを策定している(後述)。1995 年にはメリーランド州高等教育委員会(Maryland Higher Education Commission)が「メリーランド州における教師教育の再設計」(the Redesign of Teacher Education in Maryland)を発表し、同州の教師教育の改革動向を方向付けることになるが、教員養成については、INTASC のスタンダードが教員養成カリキュラムの枠組みとなることを提起している<sup>20</sup>。また、INTASC やそれに基づくスタンダードによって、パフォーマンスを基盤としたプログラムを発展させることを求めている。

### 3 メリーランド州教師教育スタンダードと教師教育関係団体との関連

#### (1) メリーランド州教員養成段階におけるスタンダードと NCATE との関連

メリーランド州の教員養成制度は、州の課程認定を受けた高等教育機関による伝統的な養成ルートであるメリーランド州認定プログラム(Maryland Approved Programs: MAP)と、それとは別のオルタナティブな養成ルートであるメリーランド州認定オルタナティブ養成プログラム(Maryland Approved Alternative Preparation Programs: MAAPP)がある。MAP は 23 の教員養成機関が提供しており、このプログラムを通して輩出された教員志望者は、2009 - 2010 年度は 2,586 名である。MAAPP は教員養成課程を修了していない学士号取得者を教職へ引き入れるために 1990 年に導入されたプログラムであり、このプログラムを通して輩出された教員志望者は、2009 - 2010 年度は 674 名である。MAAPP は、理科や数学、特別支援教育などの領域で教員不足解消において一定の効果を挙げており、MAP を補完する役割を担っているといえる<sup>21</sup>。

MAP を担う州内の教員養成機関は、州から 5 年ごとに教員養成課程の認定を受けることになっており、毎年の報告書<sup>22</sup>と定期的な実地視察(on-site review)を通して認定されている状態を維持する必要がある。また、前述したように、NCATE の資格認定を受けることも法令上求められている。メリーランド州と NCATE の協定書によると、「NCATE と協力関係にある教科別の専門機関(Specialized Professional Associations: SPAs)がおこなうプログラムレビューの結果を同州が受け入れる」と明記しているように、同州では、プログラムレビューを NCATE に移譲し、その結果を州の課程認定のプロセスとして利用している。また、同州の課程認定のスタンダードとして NCATE のユニットに対するスタンダードを活用することや、課程認定と資格認定にかかわる実地視察については、NCATE の審査委員会と州関係者の双方のメンバーで構成し、その意思決定も共同でおこなうことが定められているように、州内の教員養成機関は、NCATE の影響を強く受けているといえる<sup>23</sup>。

同州では、報告書作成や実地視察など課程認定や資格認定の際に行われる教員養成機関に対する評価の枠組みとして、「メリーランド州組織的パフォーマンス基準」(Maryland Institutional Performance Criteria, 以下、「パフォーマンス基準」)が策定されている(表 1 参照)。「パフォーマンス基準」の 5 つの構成要素は、NCATE の 6 つのスタンダードとほぼ対応する形で設定されているが、構成要素内の各項目を見ると、同州で重視されている内容が多く含まれていることが確認できる。特に、構成要素Ⅱの「長期的なインターンシップ」では、「PDS で最低 100 日間のインターンシップ」を行うことや、「メリーランド州 PDS スタンダードに沿った学校で長期的な

インターンシップを行うこと」など、同州の教師教育改革の中核であるPDSに関する項目が示されている<sup>24</sup>。このように、「パフォーマンス基準」にPDSに関する事項が含まれることにより、PDSに対する評価が課程認定や資格認定のプロセスに組み込まれているという全米でも特異な州となっている。

## (2) メリーランド州教員免許取得段階におけるスタンダードとINTASCとの関連

メリーランド州の教員免許制度では、MAPとMAAPPの養成ルートの違いにより、各プログラムを修了した者が取得する教員免許状の種類が異なっている。MAPを修了した者には、専門職有資格免許状 (Professional Eligibility Certificate) といういわゆる仮免許状が交付される。その後、学区に雇用されると、5年間の有効期限付きの標準専門職免許状 I (Standard Professional Certificate I) を取得し、新任教員として州内の学校で勤務することができる。この取得要件として、課程認定を受けた教員養成プログラムを修了し、学士号以上の学位を有することに加え、州が承認した教員能力試験において一定の合格点に達しているという証明が必要である<sup>25</sup>。

表 1 メリーランド州組織的パフォーマンス基準 (Maryland Institutional Performance Criteria) とNCATEのスタンダードの関連性

<p><b>構成要素Ⅰ：豊富なアカデミック経験</b></p> <p>教員志望者は、州のベシックススキル(Praxis I, SAT, GRE or ACT scores)と教科及び教授に関する試験(EFTSやACTELなど)の合格点を満たすこと。</p> <p>養成プログラムは、数学や科学に関する豊富なアカデミック経験を提供すること。</p> <p>養成プログラムは、メリーランド州アカデミック教科内容スタンダード(Maryland PreK-12 academic content standards)に沿っており、また自発的なカリキュラム(Voluntary State Curriculum: VSC)に結びついた豊富なアカデミック経験を提供すること。</p> <p>中等教育段階の教員志望者が、彼らの資格領域を専攻していること。</p>	<p><b>スタンダード1: 教員志望者の知識・技能・資質</b></p> <p>1a. 教員志望者のための内容的知識 1b. 教員志望者のための授業を想定した内容に関する知識と技能 1c. 教員志望者のための専門的・教育学的知識と技能 1d. 教員志望者のための生徒の学習 1e. 他の学校専門職のための知識と技能 1f. 他の学校専門職のための生徒の学習 1g. すべての教員志望者のための専門家としての資質</p>
<p><b>構成要素Ⅱ：長期的なインターンシップ</b></p> <p>教員志望者は、多様な児童生徒がいる公立学校で長期的に現場を基盤とした養成を行うが、それはPDSで最低100日間のインターンシップを連続するセメスターで行うことを含む。</p> <p>教員志望者は、協働的に計画された公立学校の選抜校で、またメリーランド州PDSスタンダードに沿った学校で長期的なインターンシップを行うこと。</p> <p>特定のPDSですべての教員志望者を養成するとともに、現職教員の継続的な職能開発を提供するという目的と一致する場合、教員養成機関(unit)は、そのPDSに対する州の承認を求め、承認を得ること。</p>	<p><b>スタンダード3: 実地経験と臨牀的実践</b></p> <p>3a. ユニットと連携校との協同 3b. 実地体験と臨牀経験の計画・実施・評価 3c. すべての生徒の学習を支援するための教員志望者の知識・技能・資質の発達と証明</p>
<p><b>構成要素Ⅲ：パフォーマンス評価</b></p> <p>教員養成機関(unit)は、スタンダードをベースにしたルーブリックによって評価される「教育スタンダードの本質的次元」(EDoTs)とINTASC、SPAスタンダードに基づいた、パフォーマンス評価システムを活用すること。</p> <p>教員養成機関(unit)は、教員志望者に形成的、累積的パフォーマンスのフィードバックを提供すること。</p> <p>教員養成機関(unit)は、養成プログラムの継続的な改善のためのパフォーマンス評価データを活用すること。</p>	<p><b>スタンダード2: 評価システムと教員養成機関の自己評価</b></p> <p>2a. 評価システム 2b. データの収集・分析・評価 2c. プログラム改善のためのデータの利用</p>
<p><b>構成要素Ⅳ：学校教育の優先事項との関連</b></p> <p>養成プログラムは、次の改革要素に焦点を当てて、メリーランド州における評価やアカウンタビリティのための専門的な教育者を養成するものであること。すなわち、自発的な州のカリキュラム、学校読書のメリーランドモデル、メリーランド学校評価、コア学習目標、高等学校評価である。</p> <p>養成プログラムは、多様な生徒(民族、社会的・経済的地位、英語学習者(ELL)、通常クラスで特別なニーズを要する者)を教えるための専門的な教員を養成すること。</p> <p>教員志望者は、メリーランド州教員テクノロジースタンダード(MTTS)におけるコンピテンシーを実証すること。</p> <p>養成プログラムは、そのプログラムで取り組むすべての成果が継続することを保証するために、現在の州の要件と課程を満たすリーディングコースを含むこと。</p>	<p><b>スタンダード4: 多様性</b></p> <p>4a. カリキュラムと経験の計画・実施・評価 4b. 多様な教職員と共に働く経験 4c. 多様な教員志望者と共に働く経験 4d. P-12の学校における多様な生徒と共に働く経験</p>
<p><b>構成要素Ⅴ：州の課程認可とNCATEの資格認定のパフォーマンス基準</b></p> <p>教員養成機関(unit)とすべての専門的な教育者の資格プログラムは、州のプログラム認可(該当する場合は)NCATEのアクレディテーションを受けること。</p> <p>教員養成機関(unit)は、州とNCATEレビューからフィードバックを利用し、毎年、TPIPとNCATE報告プロセスを通して、継続的な改善を示すこと。</p>	<p><b>スタンダード5: 教職員の資格・パフォーマンス・発達</b></p> <p>5a. 資格を与えられた教職員 5b. 教授における最善の専門的実践の形成 5c. 研究における最善の専門的実践の形成 5d. サービスにおける最善の専門的実践の形成 5e. 専門的教育の教職員のパフォーマンスに関するユニットの評価 5f. ユニットによる職能開発の促進</p> <p><b>スタンダード6: 教員養成機関の管理と資源</b></p> <p>6a. ユニットのリーダーシップと権限 6b. ユニットの予算 6c. 職員 6d. ユニットの施設 6e. テクノロジーを含んだユニットの資源</p>

出典：左表はProgram Approval and Assessment Branch Maryland State Department of Education, *Maryland Institutional Performance Criteria based on The Redesign of Teacher Education*, 2007.をもとに筆者が作成した。「パフォーマンス基準」は、構成要素ごとに指標が示されているが、本研究では省略した。右表は、National Council for Accreditation of Teacher Education, *Professional Standards for the Accreditation of Teacher Preparation Institutions*, 2008.をもとに筆者が作成した。NCATEのスタンダードの下位項目(要素)には、その熟達度を3段階(unacceptable, acceptable, target)で示されているが、本研究では省略した。

一方、MAAPPを修了すると、2年間有効のレジデント教員免許状 (Resident Teacher Certificate) を取得することができる<sup>26</sup>。まずMAAPPを受けるためには、大学での成績がGPAで2.75以上、教員能力試験 (Praxis I, Praxis II など) で一定の水準以上、教えたい教科に関連する分野の学位、教科に関する能力の証明などの要件を満たすことが必要である。これらの要件を満たした者は、事前に研修を受け、さらに指導教員の下で4週間から8週間のインターンシップをおこなうことが求められる<sup>27</sup>。MAAPPは、2010年度までに19のプログラムが制度化されており、大学や学区で提供されている<sup>28</sup>。

同州では、以上のような教員免許取得段階におけるスタンダードとして、1994年に、INTASCのスタンダードを参考にして、「メリーランド州教育スタンダードの本質的次元」(Maryland's Essential Dimensions of Teaching Standards:以下、「教育スタンダード」)を作成している(表2参照)。「教育スタンダード」は、同州の新任教員や現職教員に求められる知識、技能、資質などを示したものであり、教科内容や教授法に関する知識、学習者に対する理解力に加え、自身の実践を振り返りリフレクションや教育コミュニティとの協力など、教師教育関係団体の近年のスタンダードに見られる「専門職として教師像」の概念に基づくものとなっている。また、「教育スタンダード」は、教員の学習サイクルを知識 (knowledge)、分析 (analysis)、行動 (action)、リフレクション (reflection) の4段階の領域に分けて、新任教員が何を知り、何をすることができるかというパフォーマンスを基盤とした項目によって示されており、教員養成段階におけるスタンダードとの連続性も考慮されているといえる<sup>29</sup>。

さらに、オルタナティブな養成プログラムであるMAAPPに対しても、「教育スタンダード」やINTASCのスタンダードは適用されており、これらのスタンダードを参考にして「MAAPP実践スタンダード」(Standards of Practice for Maryland Approved Alternative Preparation Programs)が策定されており、そのプログラムの内容や方法に関する質的水準を維持・向上させようとしている<sup>30</sup>。

表2 メリーランド州教育スタンダードの本質的次元 (Essential Dimensions of Teaching Standards) とINTASCのスタンダードの関連性

1. 適切なアカデミックな理論と教授法のレパートリーを習得していることを実証すること	スタンダード4: 内容知識
2. 学習者の身体的、認知的、感情的、社会的、文化的発達に関する知識が、効果的な教育の基礎であることを理解していることを実証すること	スタンダード1: 学習者の発達
3. 学習者の家庭やコミュニティを含む、文化的に多様な資源を統合する多文化的視点を取り入れること	スタンダード2: 学習の相違
4. 特別なニーズを持った生徒を通常の教室に統合する戦略的知識を有することを実証すること	スタンダード6: 評価
5. 公式・非公式を含め、年齢に応じて、発達のニーズ、概念的な能力、カリキュラムの成果、学校目標の多様性に対処する、有効な評価アプローチを活用すること	スタンダード3: 学習環境
6. 生徒の学習ニーズ、研究、優れた実践、専門的な意見によって支援されるアプローチを活用することで、教室を組織し、管理すること	スタンダード7: 指導計画
7. 生徒や専門家のニーズを満たすようにコンピューターやそれに関連するテクノロジーを活用すること	スタンダード8: 指導戦略
8. 教室や学校が、道德的・社会的・市民的な活動の場であることを理解していることを実証すること	スタンダード10: リーダーシップと協働
9. 保護者、ビジネス、社会的なサービス機関を含め、幅広い教育コミュニティと協力すること	スタンダード5: 内容の活用
10. 教育の全ての局面で、慎重な分析、問題解決、リフレクションに従事すること	スタンダード9: 専門的学習と倫理的な実践

出典：左表は、Division of Certification and Accreditation Program Approval and Assessment Branch, *Essential Dimensions of Teaching Standards*, 1994をもとにして筆者が作成した。各スタンダードに、知識、分析、行動、リフレクションという学習サイクルの4領域ごとにいくつかの指標が示されているが、本研究では省略した。右表は、CCSSO's Interstate Teacher Assessment and Support Consortium, *Model Core Teaching Standards: A Resource for State Dialogue*, 2011, pp.10-19.をもとにして筆者が作成した。各項目に、パフォーマンス、本質的知識、重要な資質の観点からいくつかの指標が示されているが、本研究では省略した。

## 4 結 語

以上、メリーランド州とNCATE及びINTASCとの連携経緯を整理した上で、同州の教員養成・免許取得段階におけるスタンダードとNCATE及びINTASCとの関連について分析したが、その結果、図1のようにまとめることができる。

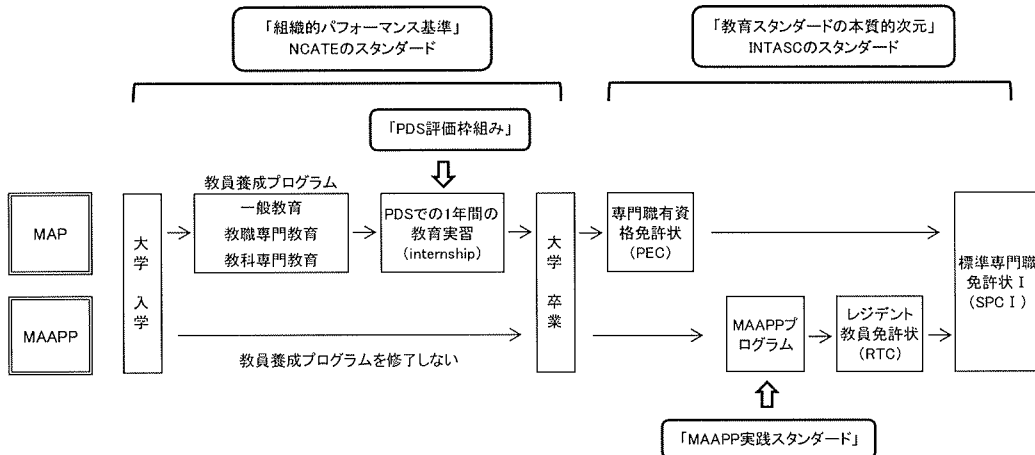


図1 メリーランド州における教員養成・免許取得段階におけるスタンダードとNCATE及びINTASCとの関係

出典: Arthur E. Wise and Jane A. Leibbrand, *Standards in the New Millennium: Where we are, Where We're Headed*, Journal of Teacher Education, vol. 52, no. 3, 2001, p.245.の「教員養成の連続性」の概念図を参考にして、本研究の分析を踏まえ、筆者が作成した。

同州教員養成・免許取得段階におけるスタンダードの特質として、次の2点が指摘できる。第1に、同州が策定した教員養成段階におけるスタンダードは、NCATEのスタンダードの内容だけではなく、同州の教師教育改革の中核であるPDSに関する内容が明確に示されている点である。同州では、州内の教員養成機関に対するNCATEの資格認定を推進するとともに、課程認定プロセスの一部をNCATEに任せており、NCATEによる影響を強く受けていることが窺えた。一方で、同州が策定した「パフォーマンス基準」は、NCATEのスタンダードには含まれない内容が示されており、特に同州の教師教育改革の中核であるPDSの役割や機能に関する事項が明確に位置付けられている。このように、教員養成段階のスタンダードにPDSに関する内容を含め、州内の教員養成機関がPDSの質の維持や向上を図ることを制度的に義務付けている州は他に見られず、PDSを中心にした同州の教師教育改革をより進展させるねらいがあるといえるだろう。

第2に、同州では、2つの養成ルートが設定されている中で、NCATEやINTASCの全米的なスタンダードを踏まえて、新任教員の質を確保するための多様なスタンダードが策定されている点である。図1に示すように、同州は、課程認定を受けた大学による養成プログラム (MAP) だけでなく、大学での養成課程を修了していない学士号取得者を対象にした、オルタナティブなルートでの養成プログラム (MAAPP) が設置されている。後者の養成プログラムは、1980年代以降、全米各州で導入されるようになってきているが、大学における十分な養成教育を受けていないため、このようなプログラムを通して養成された教員に対する質の不十分さを指摘する研究もある<sup>31</sup>。同州では、多様なスタンダードが策定されているが、特にオルタナティブな養成プログラムの質

を保証するために、INTASCのスタンダードや「教育スタンダード」を踏まえ、「MAAPP実践スタンダード」を策定し、事前の研修やインターンシップなどを実施している。他州でも新任教員に対するスタンダードが策定されているものの、全米的なスタンダードを参考にし、州レベルで多様なスタンダードを策定している州は少なく<sup>32</sup>、同州がスタンダードを基盤として教員養成・免許取得段階の質保証を図ろうとしていることが窺える。

以上の米国メリーランド州における教師教育スタンダードの特質を踏まえ、我が国の教師教育スタンダードの今後のあり方について考察したい。現在、我が国では、大学や教育委員会レベルで教員の専門性を明文化したスタンダードや到達目標を設定する動きがあるが、制度全体とのかかわりを考えると、国家レベルで影響力を持つようなスタンダードを策定することが必要である。国家レベルで教師教育の各段階の明確な到達目標が設定されているとは言い難い現状を踏まえれば、専門団体などが策定した各段階のスタンダードの下で教師教育の質保証システムを整備していくことが望ましいといえる。特に、近年では「教職実践演習」の新設など、課程認定を受けた大学であっても、どのような成果を上げたかを示すことが求められているように、教師教育スタンダードの必要性がさらに高まることが予想される。今後、我が国における適切な指標とは何かという議論も含め、教師教育スタンダードの制度的な役割や機能について検討していく必要があるだろう。

最後に、本研究の課題について指摘しておきたい。まず、今回の分析では、教員養成・免許取得段階といった教師教育の初期段階に焦点を当てたため、現職教育段階におけるスタンダードと全米的なスタンダードとの関連性に関する分析まで至らなかった。また、NCATEやINTASCとの関連や影響という制度的な枠組みを分析対象としたため、教員養成機関である大学が実際にどのようにスタンダードを活用し、機能させているのか、多様なスタンダードを策定することで新任教員に対する質保証を具体的にどのように行っているのかといった運用実態面についても今後の課題として残された。これらの点については、メリーランド州の先進的地域や大学への直接訪問調査を実施するなどしてその実態を解明していきたいと考える。

#### 付記

本稿は、平成 23 年度西日本教育行政学会研究助成事業の成果の一部である。

#### 【註】

- 1 本研究では、「教師教育スタンダード」は、教師教育の各段階、すなわち教員養成段階、教員免許取得段階（採用段階）、現職教育段階において、教員志望者及び現職教員に必要な知識や技能等を明示した基準のことを指す。
- 2 米国だけでなく、イギリス、フランス、ドイツなどで教師教育スタンダードが策定されている。吉岡真佐樹「教師教育の質的向上策と養成制度改革の国際的動向」『日本教師教育学会年報』第 17 号、2008 年、8 - 16 頁。
- 3 例えば、Linda Darling-Hammond, *Powerful Teacher Education: lessons from exemplary programs*, Jossey-Bass, 2006, pp.77-112. Linda Darling-Hammond, Arthur E. Wise, Stephen P. Klein, *A License to Teach: Raising Standards for Teaching*, Jossey-Bass, 1999, pp.16-48.などで指摘されている。
- 4 日本教育大学協会「学部教員養成教育と到達目標」検討プロジェクト『学部教員養成教育の到達目標の検討（報告）』2008 年。
- 5 教師教育関係団体については、佐藤仁「米国教員養成機関のアクレディテーションに関する一考察：NCATE



- の近年の動向」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第三部（教育人間科学関連領域）第 52 卷，2004 年，105 - 113 頁，谷塚光典「教員養成初期段階の臨床経験科目における学生の課題意識--INTASCスタンダードによる分析を通して」『日本教師教育学会年報』第 18 号，2009 年，118 - 127 頁，山下 顯史「National Board for Professional Teaching Standardsの設立と現状に関する考察」『教育経営学研究紀要』第 11 号，2008 年，27 - 35 頁などがある。3 団体の連携については，北田佳子「アメリカにおける教職専門性スタンダードの展開—NBPTS, INTASC, NCATEの連携に着目して—」『埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀要』第 7 号，2008 年，63 - 74 頁などがある。
- 6 3 団体の連携については，例えば，Nancy P. Kraft, *Standards in Teacher Education: A Critical Analysis of NCATE, INTASC, and NBPTS*, Annual Meeting of the American Educational Research Association, 2001, pp.1-26.などがある。また，教師教育スタンダードにおける公平性に着目し，スタンダードの内容を検討した研究などがある。Barbara Beyerbach & Thurman D. Nassoioy, *Where Is Equity in the National Standards? A Critical Review of the INTASC, NCATE, and NBPTS Standards*, Scholar-Practitioner Quarterly, vol.2, no.4, 2004, pp. 29-42.
- 7 例えば，州は新たなスタンダードをカリキュラムの枠組みに統合することや，教員志望者のパフォーマンスを向上させるための構造を変化させる必要があるとしている。Arthur E. Wise and Jane A. Leibbrand, *Standards in the New Millennium: Where we are, Where We're Headed*, Journal of Teacher Education, vol. 52, no. 3, 2001, pp. 244-255.
- 8 Cochran-Smithは，専門職化の動向以外に，高等教育機関による教員養成課程を修了していない者を教職へ引き入れるオルタナティブな養成ルートを創設するなどの規制緩和（deregulation）の動向や，逆に，免許基準を厳格にするなどの過剰規制（overregulation）の動向があることを指摘している。Marilyn Cochran-Smith, *Policy, Practice, and Politics in Teacher Education: editorials from the Journal of teacher education*, Corwin Press, 2006, pp. 29-33.
- 9 PDSは，大学と学校との対等な立場での連携に基づいて，養成教育と現職教育の双方の改善に寄与する公立学校である。詳細は，拙稿「米国の教師教育における「職能開発学校」の特質と課題—メリーランド州の事例を中心に—」西日本教育行政学会『教育行政学研究』第 29 号，2008 年，11 - 20 頁を参照。
- 10 NCATEホームページ（<http://www.ncate.org/>, 2011/12/12最終取得）で確認できる最新情報である。
- 11 州との連携を進める目的は，州とNCATEのスタンダードを統合させること，教員養成機関に対するレビューを厳格にすること，そして教員養成機関に対する州の課程認定とNCATEの資格認定の重複による文書作成等の時間や費用を軽減することの 3 点を挙げている。National Council for Accreditation of Teacher Education, *NCATE State Partnership States*, (online:<http://www.ncate.org/States/NCATEState Partnership Program/tabid/200/Default.aspx>, 2011/12/12最終取得)
- 12 National Council for Accreditation of Teacher Education, *NCATE/Maryland Partnership Protocol for NCATE and State Reviews* (online: <http://www.ncate.org/States/State Contactsand Protocols/tabid/279/Default.aspx>, 2011/12/12最終取得)
- 13 The Annotated Code of Maryland Education Article, §11-208.
- 14 ただし，学生数が 2000 人以下の大学には免除規定がある。2011 年現在，課程認定を受けた 23 の大学のうち，16 の大学がNCATEの資格認定を受けている。
- 15 「PDS評価枠組み」以外に，「PDS実践マニュアル（Professional Development Schools Implementation Manual）」のように，州内の大学のPDSの設置を促進するための手引書などを作成している。詳細は，拙稿の前掲論文を参照。
- 16 PDSに関するNCATEとメリーランド州の連携関係として，NCATEがPDSスタンダード策定の調査事例として同州のタウソン大学（Towson University）を選定していたことなどが挙げられる。Maryland State Department of Education, *Professional Development Schools in Maryland*, 2004, p.30.
- 17 CCSSOホームページ参照。（online: [http://www.ccsso.org/resources/programs/interstate\\_teacher\\_assessment\\_consortium\\_\(intasc\).html](http://www.ccsso.org/resources/programs/interstate_teacher_assessment_consortium_(intasc).html), 2011/12/12最終取得）
- 18 改訂されたスタンダードは，それまでのように新任教員だけを対象にしたものではなく，教職キャリアの発達段階それぞれにおけるパフォーマンスのためのスタンダードとして設定している。CCSSO's Interstate Teacher Assessment and Support Consortium, *Model Core Teaching Standards: A Resource for State Dialogue*, 2011, p.6.
- 19 CCSSOが公表している最新のデータ（2004 年度版）を参考にした。Council of Chief State School Officers, *Key State Education Policies on PK-12 Education:2004, 2005*, p.25.
- 20 Maryland Higher Education Commission, *Teacher Education Task Force Report*, 1995, p.4.
- 21 Maryland State Department of Education, *Maryland Teacher Staffing Report 2010-2012*, 2010, pp.49- 60.
- 22 毎年の報告書は，教員養成改善プラン（Teacher Preparation Improvement Plan: TPPI）を通して州教育省に提出する。TPPIの内容は，養成プログラムの概要だけでなく，PDSに関する報告が多く見られる。Maryland State Department of Education, *2011 Maryland Teacher Preparation Improvement Plan (TPPI) Template*,

([http://www.marylandpublicschools.org/MSDE/divisions/certification/progapproval/Program\\_Approval\\_Section.htm](http://www.marylandpublicschools.org/MSDE/divisions/certification/progapproval/Program_Approval_Section.htm), 2011/12/12最終取得)

- 23 実地視察の結果、正規の認定、条件付き認定、仮認定、不認定の4つの認定状況を受け取る。正規の認定は、実地視察から5年間有効である。条件付き認定と仮認定は、1、2年間限定の認定であり、州の監視や再視察などが行われる。5年間の認定に切り替えるためには、状況が改善されているという州教育長の承認が必要である。
- 24 さらに構成要素Ⅱの各項目を評価する際の指標には、教員養成機関と連携するPDSの総数やPDSにおけるインターンシップ生の数、「PDS評価枠組み」に基づくPDSの発展段階を証明することなどが記載されている。
- 25 Code of Maryland Regulations, 13A.12.01.05. 教員能力試験は、読み・書き・計算能力などの基礎的な技能を評価する試験 (Praxis I, Graduate Record Examination (GRE), Scholastic Aptitude Test (SAT), American College Testing (ACT)) と、教科やその教授法に関する知識などを評価する試験 (Praxis II など) で一定の合格点を満たす必要がある。
- 26 2年間の継続的な勤務をし、一定の要件を満たせば標準専門職免許状 I (Standard Professional Certificate I) に切り替えることができる。以下の取得要件は、Code of Maryland Regulations, 13A.12.01.07.を参照した。
- 27 事前の研修では、クラスルームの指導や運営をおこなうために必要なスキルや、授業計画、生徒への評価、州が重視するリーディングコースに関する基礎的な指導が提供される。
- 28 Maryland State Department of Education, *Maryland Teacher Staffing Report 2010-2012*, 2010, p. 58.
- 29 例えば、第1のスタンダードに関する「知識」の指標では「教科領域の理論的枠組みを説明できること」、「分析」の指標では「教科領域における主な思想家の貢献を解釈すること」、「行動」の指標では「教科領域に関する態度・気質・ふるまいの模範となること」、「リフレクション」の指標では「自身と他者の教科領域の専門性を批評すること」などが示されている。
- 30 「MAAPP実践スタンダード」は、協働、アカウンタビリティ、組織・役割・資源、多様性と公平性の4領域に分かれており、各領域に採用、事前の研修プログラム、インターンシップ、研修期間の構成要素が設定されている。Maryland State Department of Education, *Maryland Approved Alternative Preparation Programs (MAAPP) Standards of Practice*, (online: <http://www.marylandpublicschools.org/Standards of Practice 1109.pdf>, 2011/12/12最終取得)
- 31 「教育とアメリカの未来に関する全米委員会」(National Commission on Teaching and America's Future)の報告書で、大学で養成教育を受けた教員とオルタナティブなルートで養成された教員の成績や退職率などを比較した研究などがある。Linda Darling-Hammond, *Solving The Dilemmas of Teacher Supply, Demand, and Standards: How We Can Ensure A Competent, Caring, and Qualified Teacher For Every Child*, National Commission on Teaching and America's Future, 2000, pp.13-25.
- 32 NCATEの2008年の公表資料によると、26州が課程認定にNCATEのユニット基準を利用している。さらにはその中でINTASCと連携している州は15州であり、全州の3分の1程度しか全米的なスタンダードを利用していない。National Council for Accreditation of Teacher Education, *Which States Have Adopted or Adapted NCATE Unit Standards and NCATE Program Standards For Reviews of All State Institutions?* (online: [http://www.ncate.org/States/State\\_Relations\\_Resources/tabid/212/Default.aspx](http://www.ncate.org/States/State_Relations_Resources/tabid/212/Default.aspx), 2011/12/12最終取得)